

ゆっころ通信

社会福祉法人ゆっころ

〒301-0834

茨城県龍ケ崎市古城 3204

電話番号 0297-85-4301

<http://yukkora.jp/>



～社会福祉法人の責務～

社会福祉法人ゆっころ 理事長 杉江 彰

平成 18 年 10 月施行の障害者総合支援法（施行当初は障害者自立支援法）で、それまでは社会福祉法人しか実施できなかった障害福祉サービスが、法人格をもって、指定基準を満たせば認可されるようになりました。

株式会社は法人税を課税されています。最近NPO法人に法人税課税を課してきて、数百万円もの納付をしたところも聞いています。「同じ障害福祉サービスを実施しているのに、社会福祉法人は税法上の優遇措置があることは不当だ」というような議論が聞こえてきます。そもそもNPO法人は、特定非営利法人ということで設けられてきた経過があります。一部にNPOを隠れ蓑にして悪質な経営をしている部分が出てきて、NPO法人全体に課税する動きになったようです。

社会福祉法人は、特別な任務を負っていると思います。現在の社会で要請される課題について「役所から言われて」やる事業だけではありません。日々生じているニードをとらえ新たな社会資源をつくることがあります。

ゆっころは、定款（法人の憲法です）でその目的を次のように言っています。

「多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的」とする。

今回の社会福祉法改正で、「社会貢献事業」ということが言われています。既存のサービス、施設だけでは解決できない問題をどう取り組むか、まさに社会福祉法人に課せられていることだと思います。



～ゆっころを知って～

ゆうあいワークイン Y.Oさん

私はある病気で引きこもりになってしまった。

人との付き合いも対話も苦手な私。親や兄弟にもあきれられ、どうすればいいか分からなかった。

そんな時、医師から仕事をサポートしてくれる場所があると知らされた。

仕事なんて何度失敗したか分からない。病気と知らずに頑張ってきたが、対話すらできない自分が何もできやしないし、笑われて見捨てられるだけだと思った。

しかし、親も医師も「ゆっくりでいいから行ってみなさい。」と言うのだ。

それで私は行くことにした。

一人で行くのは嫌だから父と行くことにした。母は仕事だ。

ゆうあいワークインに来て、職員に案内されて見学した。作業室、食堂、休憩室もある。

私に作業ができるだろうか…。

作業は2種類あった。一つは本の手入れと包装。もう一つはハンガーのリサイクルのシールはがしだった。

自分でできるだろうか…。また不安になった。

「自信ない。」と言う私に、「またすぐあきらめる。まだ何もしないで決めつけるな。」と父が言う。「だって…。」と私。

そう追いつめないで下さいな。ゆっころは、茨城の方言でゆっくりを意味します。

ゆっくりか。なんかいいな。和む。ここなら私なりにできるかもしれない。ゆっくりと自分の病気を受け入れて向き合うことが出来るかもしれない。

そんなことを考え、ここに来たいかも…と思いなおして一ヶ月の予定表を受け取って帰った。



第18回チャレンジアートフェスティバルinつくば ～アートでつなごう、みんなのこころ～

地域活動支援センター わかば 井上梨紗

3月2日につくばカピオにて舞台発表が、3月5日～10日までつくば美術館にて作品展示が開催されました。舞台発表ではわかばから「THE EMERALDAS(ジ・エメラルダス)」がバンド演奏を行いました。

また会場ではわかばの手作り雑貨も販売し、多くの方にご好評いただきました。作品展示では9名のメンバーが個人作品を出展し、わかばメンバーの共同作品「世界にひとつだけのまんだら」という名の直径2mの円状の大型作品も展示しました。共同制作では、プロジェクトメンバーによるミーティングを昨年の7月頃より開始し、「多様性」「輪と和」というコンセプトのもと、少しでも多くのメンバーが気軽に参加できるにはどうしたらよいか考えました。「アートって何だろう?」というところから始まり、何度も話し合いやアート制作を続けていく中で少しずつ作品として形になっていくプロセスを共有しました。最終日に開催されたクロージングイベントの作者紹介のコーナーでは、約300点の中からわかばの共同作品が選出され、数名のメンバーが制作過程や感想などを発表しました。



以下は、今回のチャレンジアートに参加したメンバーの声をお届けします☆

- 自分の作品が出せたことが幸せでした。(Aさん)
- みんなでできたことがよかったです。(Kさん)
- こういう機会があることで小さくても社会とつながれるのでありがたいと思います。欲をいえばもっと一般の方にも見てほしいです。(Mさん)
- アートを通じて色々な障害のある方とつながることができたような気がします。(Oさん)
- 今まで共同作品は初めてで、自分の作品が一つの輪の中に入っているのを見て良かったなあと思いました。(Mさん)
- エンjoyできればいいな、という気持ちで発表しました。(Fさん)



～2019年度 ゆっこら職員全体集会～

本部 吉田 満輝

第1部では研修も兼ねて「夜明け前～呉秀三と無名の精神障害者の100年～」という昨年公開された映画の鑑賞会を行いました。呉秀三という方の名前や言葉などは何度も耳にしていたましたが、実際に映像を見ることで、その時代背景や状況、また、それに伴う考え方をリアルに感じることができました。

第2部では理事長よりお話をいただいた後、永年勤続者表彰、各事業所の紹介や今年度の抱負など、終始和やかな雰囲気で行われました。

本年度は職員53名体制でスタートを切ります。9つの事業所を利用する方は150名を超え、年を追うごとに社会福祉法人ゆっこらの担う役割が大きくなっていくのを感じています。

